

早実 3F Memorial Book

杉先生徳川賞受賞・喜寿お祝い & 早実3F卒業40周年記念
2011.10.29 クラス会



徳川賞受賞記念 特別寄稿 杉 仁

あなたの隣の一茶たち
— 在村文化とは、在村俳人とは —

昭和46年卒・3F記念ブック制作委員会

早実 3F Memorial Book

杉先生徳川賞受賞・喜寿お祝い & 早実3F卒業40周年記念号

2011.10.29 3Fクラス会にて
(46年卒)

杉先生

喜寿

おめでとうございます!!

先生、多摩在村文化の
講座は休憩もほろんで
大盛況で南かきで
いっしょにさました。
ニハカも入った
こは踏ま!! 梅原

クラス会 喜寿の祝いの
神有月
おえいでさ々
御活躍下マッ 馬波

先生これから益々元気で
今日まで、先生と私の母が
2才ちがいとほ気が付きまし
ていた。大澤祐太郎

毎年元氣な私見せ
強しことたりしに
いいちち 豊原

先生も私達も年を取って来
たが、おそく、40年前と
変りない!! 氷から味長く
この会を続けたいです(馬山)

今後とも、ご自分の楽しめる事

たくさんなさって下さい。
おめでとうございます。永下

最初の授業は今でも覚えている。早ア・昌季・沖島研介。
答を教える。結果を出し別する課程が面白く、117も思っている。



杉先生

おめでとうおめでとう感謝です。
昔と全く変わりありません。
御自身の研究にこれから邁進下さい。

まはる母、おめでとう

大物超夫(杉先生)の
お祝いも60才おめでとうの
お祝い杉先生の有りがたう
先生、おめでどうおめでとう
大器晩成のお話、その後
話しますね 山田みゆき
先生も元気でなにより
です。私も、生かされて
元気にいっしょ。山田雅春

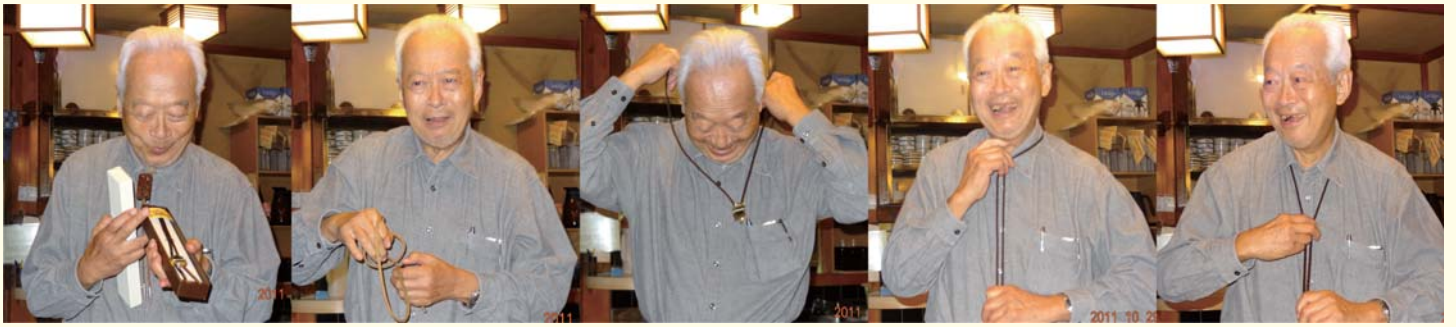
みなさんの元氣な顔が
毎年わたります 木下
徳川賞、おめでとうございます!
ますますのご活躍を期待しています!
娘世々御世はありました。杉野
御元氣で御活躍して下さい
角田

2011.10.29

卒業して40年。あの日は
今でも…。これが もう一歩
前へ、大きな足跡を残して
下へ。 野島輝昭

右利文化に、興味関心
をもって接する心が出来れば
嬉しい。と云う 大橋に実





しゃれこうべの歌

イタリア シチリア民謡
日本語詞：東大音感合唱研究会編

D Em7 A7

1) たい ほう の う え に しゃれ こ う べ が
2) あ め に う た れ か ぜ に さ ら さ れ て
3) は る が き て も な つ が す ぎ て も

D A7 A13 D

う つ る な め を ひ ら い て い た
そ ら の は め を に ら ん で い た
だ れ も は な を た む け て く れ ん ぬ

D D7 G Em

しゃ れ こ う べ が ラ ラ ラ いう こと にや
しゃ れ こ う べ が ラ ラ ラ いう こと にや
しゃ れ こ う べ が ラ ラ ラ いう こと にや

G A7 D A7 D

か ね の お と も き か ず に し ん だ
お ふ と く ろ と も あ わ ず に し ん だ
ひ と の あ い も し ら ず に し ん だ

しゃれこうべの歌(しゃれこうべと大砲)：

イタリア・シチリア民謡。この歌は、1950年のイタリア映画「越境者」の主題歌として使われました。「越境者」は、工場閉鎖で大量に失業したシチリアの労働者たちが、職を得るために、さまざまな困難に会いながらも助け合い、長いイタリア半島を縦断してスイスに越境していくという物語です。日本では、昭和20～30年代、反戦歌の一つとして歌われました。

この歌は杉先生の愛唱歌であり、いろいろなイベントで歌ってこられました。世代を越えたリクエストがあるということです。今回のクラス会でもギター伴奏付きでみんなで歌いました。先生は相変わらず楽器みたいないい声でした。因みに先生には頑固な「絶対音感」があり、この歌はBメジャー(口長調)で歌われました。半音違ってても違和感があるそうです。

CONTENTS

あなたの隣の一茶たち

— 在村文化とは、在村俳人とは — 杉先生 —	4
2011.10.29 早実 3F クラス会アルバム	8
杉先生メッセージ(3F三敬新聞最終号より)	12

ESSAY(3F一同)	14
近況(クラス会案内返信ハガキより)	21
Time machine	22
3F Address LIST	23

第八回「徳川賞」を受賞された杉先生の

『近世の在村文化と書物出版』を

わかりやすく解説していただきました。

あなたの隣の「茶」たち

—— 在村文化とは、在村俳人とは ——

杉仁



発行：吉川弘文館



「江戸文化」意外史、
農山漁村でもさかん

この冊子は、近世江戸時代の農山漁村の文化を、村の俳人「在村俳人」たちを中心にみたものです。あなたが今住んでいるお隣にも、一茶のような俳人がいたかも知れません。
農山漁村に「文化」があったのか……。そう思う人は少なくないはずですが、しかし、「文化」をどうみるかによって、話は大きく変わります。

「文化」とは

そもそも「文化」とは何でしょう。多くの人々がいろいろ述べていますが、むずかしい議論がほとんどです。

私の師事した「西岡虎之助」*先生は、

人びとが生きているありのままの姿をもとに、わかりやすい言葉でこう述べています。

「人間が生きて行くためには多少の努力がともなうものであるが、その現れが文化であり、したがって文化史は人間の努力の過程といえる」……。人間の努力のあらわれが、「文化」というのです。

*和歌山県生まれ、一八九五〜一九七〇年。荘園史・民衆史・女性史などの先駆者として活躍されました。この文章は、一九三八年（昭和十三年）の「日本女性文化史研究発表会開会の辞」（於日本女子大学）で、女性も努力しているから〈女性文化史〉がある……。という画期的な発言です（『著作集』第四巻所収。三一書房一九七八年）。のち『日本女性史考』も刊行しています。

人はだれでも、よりよい事（おこない）、よりよい物（つくりだしたもの）を求め、それぞれなりに努力して生きています。人はすべて、「文化」をつくり出して生きているのです。

人はだれでも、赤ん坊でも、這いだし、歩きだし、おしゃべりします……。すべて一生懸命、努力してなした「文化」です。育児も、赤ん坊の文化努力をたすける「文化」です。障害ある方の努力は、最高の「文化」といえます。

人だれでも「文化」をつくりだしているとするれば、これまで「文化」とは縁がないと思われた人びと、とりわけ農山漁村の人びとは、どうなるのでしょうか。

じつは農山漁村（在村）にも、ゆたかな文化がありました。だれも目をつ



徳川賞とは：公益財団法人徳川記念財団が制定している名誉ある賞。日本近世に関する研究を積極的に奨励し支援する目的で設定され、特に優れた研究書に対して贈られる。審査がきびしく、該当なしの年もある。

けなかつただけです。これを「在村文化」と名づけました（拙著『近世の地域と在村文化』二〇〇一年、『近世の在村文化と書物出版』二〇〇九年）。たしかにあなたの隣にも、「一茶」のような俳人、文化人が大勢いた……。これが近世江戸時代でした。

農山漁村でも「文化」はさかん

まず、農業や蚕業や山林業や漁業の「生産活動」そのものが、「文化」です。よりよいものを、よりたくみに、より工夫して作りだす……。よりよい価値をもとめて努力する生産活動は、立派な「文化」です。「生産文化」と名づけました。

生産の工夫を書きとめ、人びとに広めようとする技術書「農書」や「蚕書」があります。生産と生命をさまたげる



災害や飢饉の記録、大勢が命をかけて立ち上がる一揆の記録…。地域の歴史や地理をまとめた「地誌」もあります。



出版されたものも少なくありません。

家事や育児も、よりおいしく、

より健やかに、よりよい価値をもとめて努力する、立派な「文化」です。「生活文化」と名づけています(挿絵は破魔矢をもたせ子を慈しむ俳人)。

そのころ、「文化」という言葉はありません(元号にはありますが)。とくに学術や芸術など、今でいう「文化」は、風雅、風流、好事、好学、などとよびました。あわせて「風雅文化」と呼ぶことにしています。



人数の多い順に、俳諧(俳句)、書画、茶道、花道(挿絵は活花にみとれる女流俳人桐生綾女)が最下層、さらには狂歌や俳諧師匠が中層で、最上層は和歌や漢詩文です。学問や教育は、庶民の「読み書きそろばん」から、中国輸入で学者たちの「儒学」まであります。

近世江戸初期、武家や町人の「都市文化」にはじまり、まもなく農山漁村の在村へひろがりました。

こうした農山漁村の文化活動、「生産文化」と「生活文化」に「風雅文化」をあわせたものを、「在村文化」と名づけ、とくに風雅文化で活動する村の文化人を、「在村文人」と呼んできました。

「在村文人」は村民の上層で、全村民の1割10%くらい。名主や庄屋や組頭など、代々村役につき、たくわえた富で商工業もいとなむ、村役豪農商たちです。

専門の文化人ではありません。村役と生業と風雅を一身に担って奮闘する、「業雅一体」の活動でした。

村役豪農商層は、年貢の立替えなどによる金融業、地域産物の仲買業、小作米や買入れ米による醸造業など、商工業をかねて大きな富をあつめ、富豪になります。格式

張って贅沢し、家計にゆきづまる大名や武家にも金を貸し、利子をかせぎます。これらの富が文化活動の財源にもなりました。

文化の世界は身分上下なし

俳諧や狂歌、和歌や茶道は、仲間と座を組み、句会や歌会や茶会を開いて技を磨き合います。風雅文化に、交流はつきものでした。「座の文化」、「交流する文化」といえます。

農山漁村でも風雅交流はさかんでしたが、交流の仕方に特徴があります。一言すれば、身分上下は問わない、「対等な交流」です。

村役や生業は、表の公的な「実名」(農民なら年貢負担者名)でおこない、身分上下を重んじますが、風雅は、裏の私的な「雅号」でおこない、身分上下を問いません。作品の善し悪しは実力次第、身分や性別や年令をこえ、対等に評価されます(評価のときは無記名がきまりです)。

私的な風雅交流の文化世界は、一種対等の世界だったので(社会では格差は大きく平等ではない「対等」)。茶道では、武家も茶室(風雅世界)に入るときは、身を守り身分をしめす刀剣は手放し、所定の棚に収めねばなりません。ほとんど乞食あつかいの俳諧師も、身分の高い大名や武士の句会にまねかれて同席します。

俳諧師の多くは、句作と俳諧の指導のみで生きています。小林一茶のように貧しく、パトロン門人の豪農商人たちの援助で生きざるをえません。乞食同然とみなされてきました。そうだからこそよい句がで

きるとして、あえて乞食たるうとしたのが「松尾芭蕉(初号「桃言」)ですが、磐城平藩の第六代藩主「内藤義英」俳号「露沾」の江戸屋敷の句会で、しばしば同席していた事実は有名です。

もちろん、「男女差」、「年令差」、「職業差」もあります。ただし、俳号□□の村名肩書■に、「女」「遊女」「盲人」、あるいは「少年」などをつけて、区別はしています。「■女□□」、「■遊女□□」のようになります。

「加賀千代女」や「下総大穴園女」(船橋市大穴、挿絵は八十歳記念集の雀とたわむれる園女のように、雅号に「女」や「尼」(夫や師の没後に剃髪すると「尼」)をつけるものもいました)。



句の善し悪しの評価に男女差がないことは、最初に紹介する女流俳人「八王子星布」が

よい例です。関東西半分の地域では、俳諧宗匠のトップでした。

八〇歳記念句集『春山集』(二八二四文化八年刊)の入選者は、多摩郡から武州(東京埼玉)、相州(神奈川)、甲州(山梨)にかけてひろがる、大勢の門人たちでした。

女流でも、これだけひろい地域から門人があつまったのは、男女差を問わない風雅文化ゆえのことです。

生業を支える「風雅の信用」

在村文化では、裏の私的な風雅世界でつちかわれた信用、いわば「風雅信用」が表裏一体、表の公的世界の村役や商いなど、「生業信用」をささえました。

風雅文化を身につけた方が、村役や商いなど、生業をうまくやるのに有利だったのです。「風雅の交流」は、「信用の交流」でもあったのです。

生業と風雅が一体、「業雅一体」だからこそ、在村文化は、村役のいるところすべて、商いがおよぶところすべて、「山の奥々津々浦々」までひろまったのです。

雅号には地名肩書をつけますが、在村では、地域内ですぐわかる村名肩書になります。「八王子星布」「高崎一紅」のようにです。交流は、おおむね地域内にとどまりますが、商いの流通路によつては、信州と奥州、武州と越後、上州と能登輪島など、思わぬ遠くとむ



すばれます。

在村文化の交流は、村から村へ、地域から地域へ、網目状につながりながら、「山の奥々津々浦々」まで、海のように一面にひろがっていたのです。

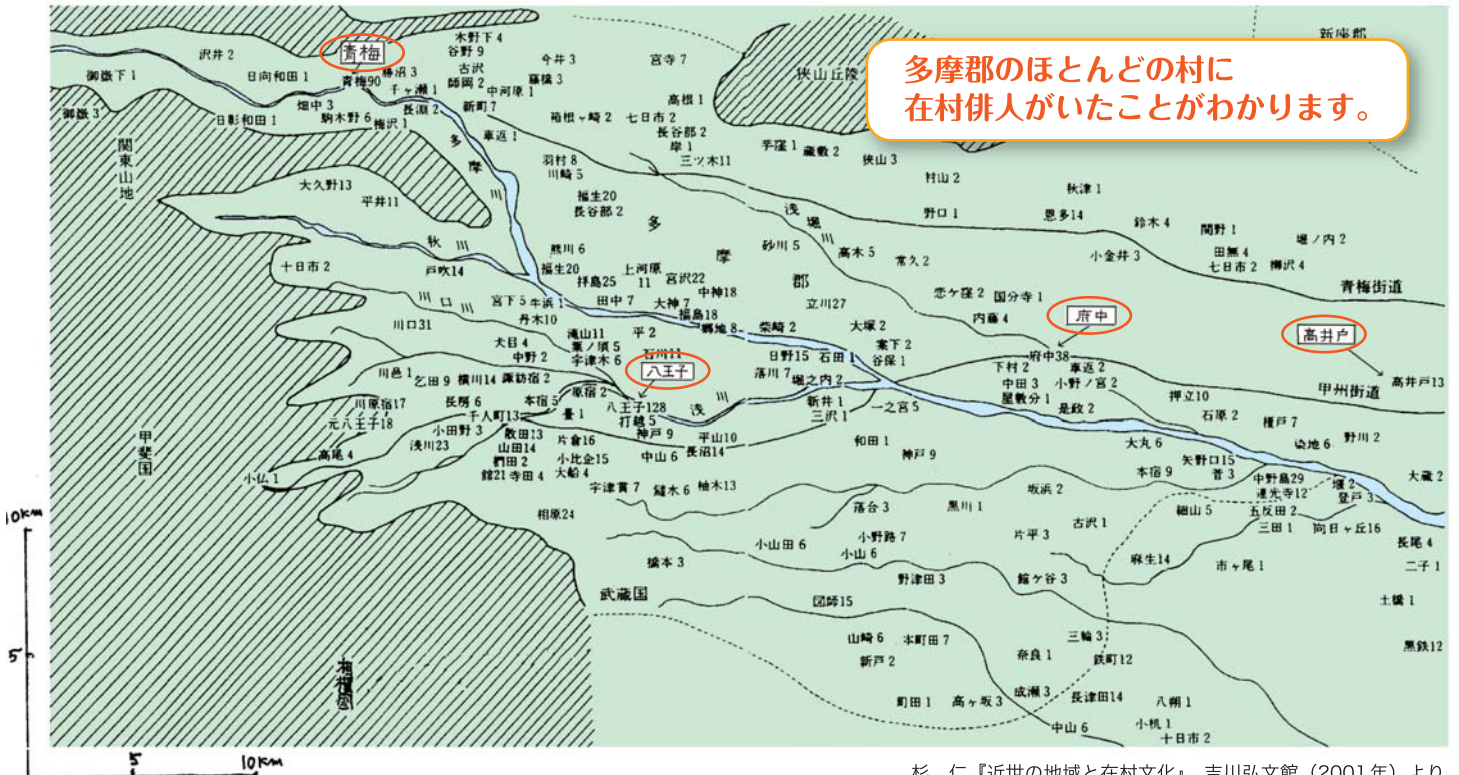


在村文化は「山の奥々津々浦々」まで

【図1】は、近世中後期の多摩郡でみつけた在村俳人の村名肩書と俳号の人数分布です。右端に「高井戸」、中央寄りに「府中」、やや左寄りに「八王子」、左上隅に「青梅」がみえます。多摩郡ほとんどの村に、在村俳人がいたことがわかります。

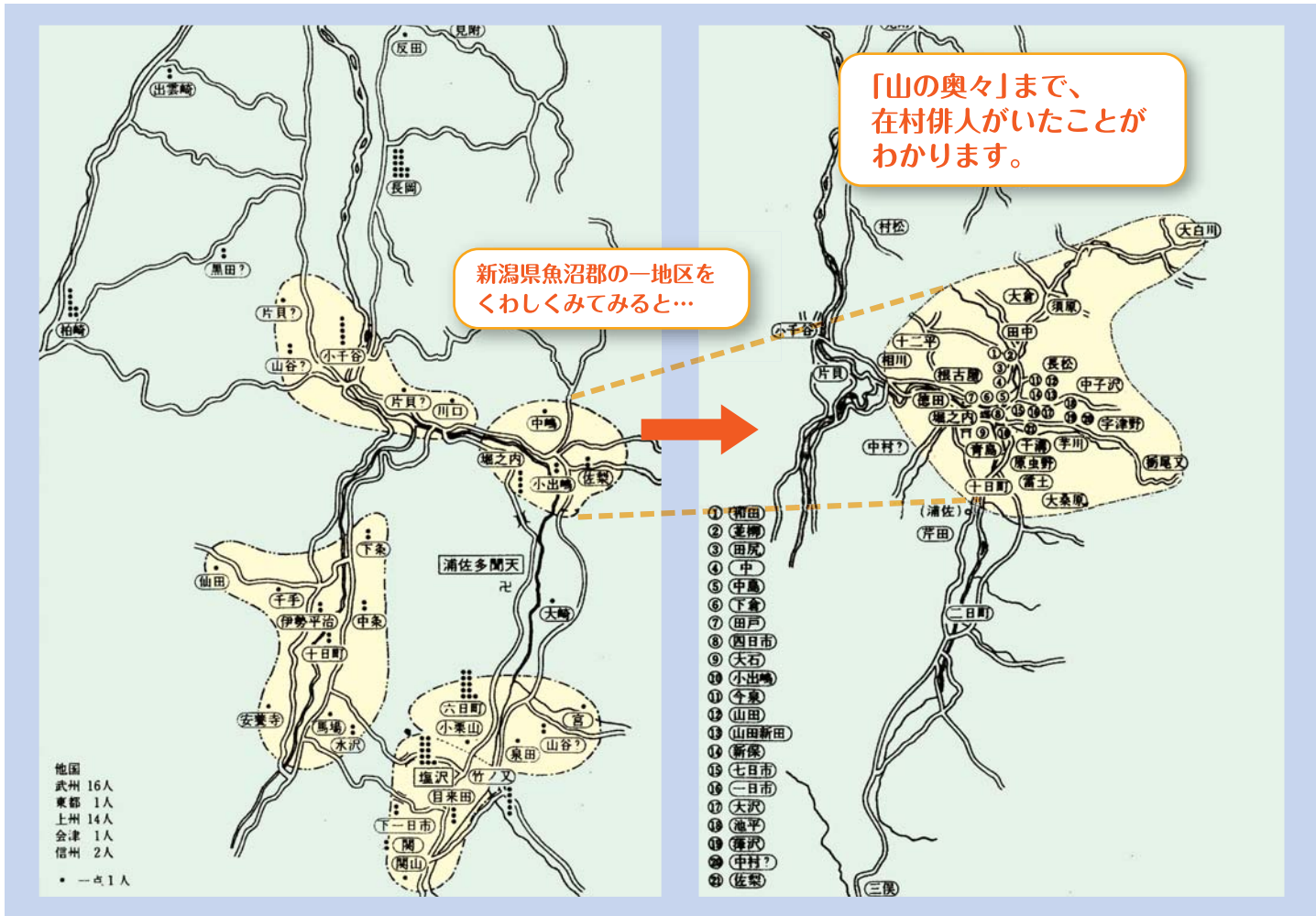
【図2】は、新潟県堀之内村大神宮の「奉額句合」六点の分布図です。左図は、塩沢村の『十評発句合』の分布図で、魚沼郡全体にひろがりますが、右図は、そのなかの一地域をくわしくみたものです。途切れたさきは会津まで、「六十里越え」の山ばかりです。「山の奥々」まで、在村俳人がいたことがわかります。

図1 武州多摩郡の俳人分布 (村名と俳号数)



杉 仁『近世の地域と在村文化』吉川弘文館 (2001年) より

【図2】「浦佐多聞天法奉額 十評発句合」入選俳人分布(村名と俳号数) / 「堀之内村大神宮奉額句合」(7点)の入選俳人分布(村名)



【図3】房総『杉間集』俳人分布



【図3】は、房総の夷隅郡鴨根村(いま岬町)、「清水寺」の芭蕉句碑「杉間塚」の建立記念句集『杉間集』の参加者の房総分布図です(江戸までひろがるが人数は省略)。湊や小さな漁村もふくめ、「津々浦々」までひろがっているようすがわかります(拙著二〇〇一・二〇〇九より)。

このように、江戸時代に成熟した近世文化は、「都市文化」と「在村文化」の二つから成り立っていました。江戸文化の高いレベルは、「都市文人」と「在村文人」双方が支えあっていたのです。

千葉県船橋市三咲に住んでいる私の友人は、「散歩する近所に在村俳人の墓があった…、市指定の文化財になっている…」といっていました。さきの

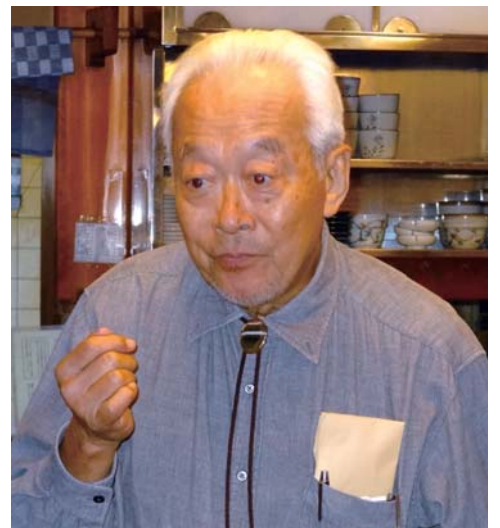


「下総大穴園女」の墓のことです。全国どこにでも、「あなたの隣の一茶たち」がいたのです。

以下、「在村文化」と「在村文人」、とくに、「在村俳人」の活動を、くわしく見ていきます。(以下省略)

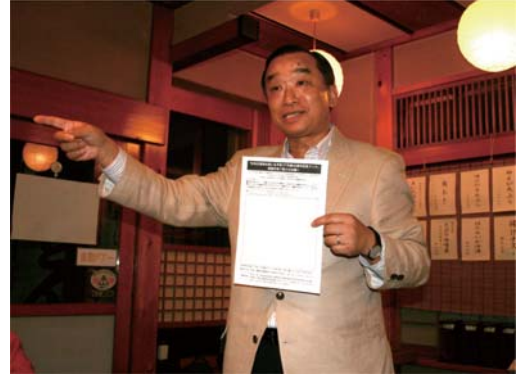
在村文人と思われる墓(静岡県富士市)「白雲軒雁行之墓」と刻まれている

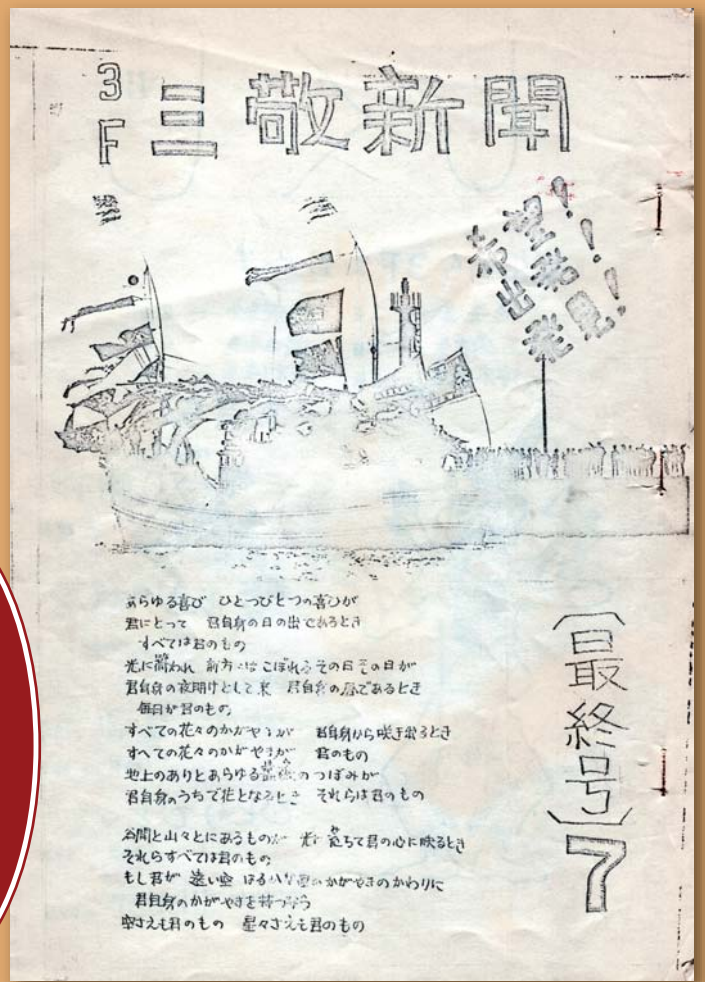
杉間集：制作年代は文政9年(1826)で、芭蕉翁碑建立記念集として上梓された。











※この3F三敬新聞最終号は、梅原邸から40年振りに発見されました。

F組紳士録

一寸波い音が独特の味
 準勤賞の青木敏雄君
 46年度普三F組大学入試突破決定第一
 号の青島良和君
 がっすり眼鏡で肩振ってのッレのッレ
 と阿又津俊昭君
 井の瀧のように細い口からにこにこ
 話が出るように井口哲夫君
 せいじかのうまにオーバーが目立った
 ドアの近くで山岳博士君
 岳人の約哲
 風っ飛びやうに伊月浩君
 井上雅由君
 剣道一筋 井上雅由君
 上野仁君
 梅原和彦君

杉先生メッセージ



オーサワユータロー男でござる、副組長
 大沢裕太郎君
 とつてもキレイなお姉さんもつてしあめ
 大島起夫君
 イングリッシュスピーカーキンググラ
 大橋仁美君
 リン！三年生の時皆勤賞残念でした。ハシカ
 大島祥介君
 マンガの被写体といえまして厚き御礼を
 小堤正一君

後からやうれて鞭打っちゃたってねー
 乙黒幹雄君
 無事じゃなかった
 武蔵国老親郷の住人 金森の.....
 金森謙二君
 と名のりば古武士の風格
 木下徹君
 ニコニコしながらララストスバート
 フライン・キック！ 大学でもやるね、さつと
 駒崎尚宏君
 奇跡の人！ よくもまあがんば
 着藤邦男君
 部活動中興の英主
 着藤竜也君
 いっもりリウ/リウ/リウ！ 呼ば
 顔にかかると登かき上げる手、よく似合
 佐木康雄君
 島村なくして文化祭なし、毎年
 島村近宏君
 文化祭もや
 清化祭もや
 皆があ
 旺文社が「かっ！(佳)」とおどろ
 霜田陽美君
 とおどろいた。
 月柱にもたれりやーおとしの
 菅野重雄君
 いい絵かいたんだってねー「未完の幻想」
 杉沢智昭君
 独特な形の口からサワヤカに流
 鈴木秀幸君
 重田の体操
 重田雅敏君
 重田の地理
 八ワイ
 活躍いっねー
 瀬古伸弥君
 ヒョーショヨージョーキミハよく努力して
 妹尾雅行君
 駿の長工の限界にいじみ！ 妹尾雅行君
 高島盛雄君
 無言のうちで賞をとり素直の人
 高原俊善君
 体育祭実行委員長として修学旅行歌集カ
 武井俊憲君
 のボデイラインは流かたね
 武井俊憲君
 ダンナヨウサン！ 応援団長さん！
 竹内孝男君
 風格だねー
 千代孝男君
 いっつもクラスにユーモアを振
 まさきつづけ
 角田匡之君
 生徒会副会長、いろいろ大変ご
 角田匡之君
 でした。準勤賞の
 WBS! WBS! 二つら早放送局
 目村昭君
 黙々と細い体でがんばったね
 仲川雅治君
 かが一九六九年に高校生だ
 中村修二君
 ！...
 中村修二君
 哲學的風貌の信州人。この人も記録の限
 西沢正雄君
 界に挑戦？

ヒョーショヨージョー、君はよく努力して警
 の短工の限界にいじみ... 野口晋彦君
 逕管理委員 二年間ごころう... 野島輝昭君
 ラグビー部です、鼻折れんほどの猛走は関
 若賀誠二君
 東一！
 ラニス早朝練習で苦勞したの
 煙山清治君
 救急情報！ 本日後二時国立の
 市道で軽乗
 原俊明君
 スミマセン、早くヒラシタです、
 数らかエに
 水泳部です。泳ぎぬきました
 平下一郎君
 抱を背中に細い目で、スバイクも
 古山博君
 マワリワタル！ バスケット主将
 馬渡渉君
 ナイスシュート！
 馬渡渉君
 ケンケヤーン！ 先生から電話よー！
 茂木憲司君
 将軍家に柳生あり、新聞部に柳生あり
 柳生貴也君
 図書委員会永年勤続委員 何年
 間もごころ
 山田雅春君
 静かなユーモリスト、コーガイの
 渡部薫君

おめび
 杉先生の手紙以上の御熱筆が、我々編集
 員の手裏から目次になんていへずに出
 来てしまった事を深くおわびいたします。
 恋自体に飽きがあるからこそ二人は遊
 に出かける必要があるのだ。
 永遠の恋とは二人が交わっているというこ
 だけで満たされるものだ。
 ただ二人で並んで立っている、
 そうした行為によって二人が何か面白いこ
 とないかというふうな気がなつたう
 二人の恋は終わったのだ。
 恋によって青年が生きているというの
 は二人一緒にいるというのとだけ
 胸がときめくというのとだけ
 (加藤詠三「愛する」と愛される
 三より)

ESSAY

- 3F一同 -

- 印象に残るエピソード
- 今だから言える話
- 学友・先生の思い出
- 還暦を控えて
- あの人のその後
- 修学旅行(四日市)のルート
- 現在のこと
- 書式自由エッセイ



など、をテーマに
クラス会の
イベントの一つとして
皆に原稿を募りました。

「杉先生喜寿お祝い&早実3F卒業40周年記念ブック」 原稿作成ご協力をお願い

3Fクラス会に撮影した写真を元に、コメント入りの記念写真ブックを作成したいと思っております。
(PDFなどにして、皆さんに後日配布予定)

つきましては下記のテーマを参考に、ぜひ何かご執筆願います。

<テーマ例> ※アンケートではありません。

- 印象に残るエピソード ●今だから言える話 ●学友・先生の思い出 ●還暦を控えて
- あの人のその後 ●修学旅行(四日市)のルート ●現在のこと ●書式自由エッセイ

※秘蔵写真などを持っている方は、後日ぜひご提供ください。(必ずご返答します。)

氏名: ▼下記スペースにご記入ください。
※後日メールまたは FAX 等で送付でも OK!



送付先 氏名原稿依頼: ●4コマ漫画(小短) ●最近のシニアの精神状態など(野口) ●コラム ●江戸時代の早稲田(熊原)

★Eメール・FAX・郵送で馬渡までご送付ください※締切:なるべく平成23年11月末日までに

送付先 Eメール: mawatari.wataru@eneos-frontier.co.jp
FAX: 03-3563-9164 ENEOSフロンティア 馬渡 宛 (TEL: 03-3563-9162)
郵送: 〒245-0067 横浜南区深谷町9 29-6 馬渡 渉

歴史の表層と深層 II 杉先生の歴史の授業から教わったもの

馬渡 渉



自分は「まっさら」な状態で早実(中学)に入学してきた。世の中というのは「表面に現れているもの、目に見えるもの、耳に聞こえるもの」が全てだと思っていた。

しかしながら物事には表に現れている部分(表層)と裏に隠れている部分(深層)があること、裏に隠れている部分(深層)がエネルギー源となつて表に現象が現れること、更には、隠れている大きな力が意図した現象を表に現すこと、などを徐々に知るようになった。

このような発想を持つようになった契機は杉先生の日本史の授業であった。先生は黒板に白墨で、何でもこのように起こったのか? エネルギー源は何なのか? 我々に絶えず問われた。その繰り返しの中で表層と深層を考える思考方法が徐々に培われた。

我々は四日市に公害の見学に行った。日本合成ゴムの説明者の方が最新鋭の設備だとの説明をしてくれた。その説明者の心には一点の曇りもない、と感じた。しかしながら当時四日市は日本有数の公害地区だった。何でこんなチグハグな事が起きてしまふのか?

日本は戦後の復興期から高度成長期に入っていた。奇跡的な戦後復興、成

長を遂げていた。しかしながら戦後復興・成長は水俣病に代表されるように公害問題と同時並行で達成された。自分は横浜の田舎に住んでいたので小学生の頃は近くの谷川には「やまべ」が沢山生息していた。しかし高校を卒業する頃には生活排水が原因で生物が死に絶えた「死の川」になってしまった。

戦後復興・成長は環境破壊、国民の健康を犠牲に達成された。犠牲にしたのは不可抗力なのかそうでないのかと言え、不可抗力ではないというのが事実だと思う。表の現象は不可抗力のように写るが、裏では大きな力が戦後復興・成長の爲に環境破壊、国民の健康を犠牲にしてもやむをえないと判断していたように考える。

世の中は裏に隠れている大きな力がその時その時の価値観で物事を恣意的に動かそうとする。そのことに気がつかない一般市民は大きな力の思い通りに操られる。

今日日本も世界も時代の大転換点にある。今まで入手できなかった「真実の情報」がWEBサイトに溢れている。「真実に目覚めた市民」が「世の中の裏に隠れている大きな力」と全面対決する時代に突入した。2009年以降の日本でもまさに「最後の戦い」が繰り返され、2009年以降の日本で何が起きたのか? 何がエネルギー源なのか? と杉先生の後継者が熱く語る時代が必ず来るものと確信する。

の「？」
良し悪しを言えぬ。

川崎から出て来た私は「何で来たの？」
四日市の体育館。市の職員？から公害問題の説明を受けた。いわく「四日市も大変ですけど公害は川崎の方がヒドイ」と。



修学旅行(四日市)

梅原和彦

誠実さを学びました

木下 徹



杉先生には誠実さを学びました。クラスの皆さんが自分の店に集まってきて、とてもうれしいです。今度、都の道路拡幅のため、店を建て替えしなければならなくなりました。新しい店、自宅の設計図と格闘しています。なかなかうまくいきません。24年11月初旬ごろ開店の予定です。

還暦を控えて

大島 起夫

我々が生きて来た時代は小学生の時東京オリンピック、高校生の時は大阪万博など世界に日本が少しづつ認識された時期でした。

高度成長の真っ只中に中学・高校と過してきてGNPも世界第2位の国家となり、当時はこのまま世界の頂点に上り詰めると思っていた時期でした。その後も成長は続き企業も個人も資産が増えて、我々の20代から30代はバブル時代でした。

その後は皆さんもご承知のとおり40歳位から現在に至るまでは、バブル崩壊で日本の景気も低迷して、現在はヨーロッパ各国が大変な情勢です。当然日本も影響が今後大きく出てくる予想です。しかし我々の人生はこの様な時期に人生の大半を過ぎて来られてある

意味変化にとんだ人生と私は個人的には思います。我々の親の時代の戦争の苦勞を味わって来た方々よりは大変幸せな時代を過ごせたと思います。今後は自分の経験を家族・後輩などに伝えて行きたいと思っています。

最後にまだまだ我々の年齢は第2の人生の出発とも思っており、趣味や友人との交流などを積極的にして、悔いの無い人生を送って行きたいと思っております。



2006年 早実夏の高校野球大会決勝戦 甲子園にて



浅草三社祭りに家族と

親子3代、早実

大澤 祐太郎

体重も血糖値も増えたけど、元気ですよ～！我が家は親子3代、早実。祖父は「秋太郎」、父は「順次」、自分は祖父の名前に因んで「祐太郎」と名付けられた。

早実中等部の入試結果発表の日、父と一緒に見に行った。そこで山口直平先生に会い、直平先生も父を覚えており、「やあ、大澤君、元気かい？」と父に声を掛けてくれた。父は「はい！元気です！」と最敬礼していた。商業の鶴岡教諭(ToT)、英語の芦沢教諭は父親の在校生時代の先輩だった。親子で教わった教諭もいた(^o^)。理科鈴木先生、珠算上浜先生(ソロチビ)、歴史石澤先生o(^-^o)、名譽校長直平先生。

今だから言えるが、高校になってから、時々授業を抜け出して、近くの雀荘でマージャンをやった。これは見つか

らなかったが、ある日長岡屋でタバコを吸っているのを、美術の渡辺先生(ヤマンバ)に見つかり、停学になった。一週間の予定だったが、「初犯」で、副組長ということもあり、5日間に減刑された。

停学中、父の仕事を手伝っていたが、減刑の知らせを聞いた父に「仕事が忙しいから、もっと停学になっていけばいいのに」と、それから「タバコ吸うのはいいけど、見つかるお前が悪い！長岡屋で吸うなんてドジだなあ」と言われた。





(1) 高校3年間の想い出と卒業後の進路決定

早実入学後の私は、いろんなことにチャレンジすることに燃えていた。1年D組では、クラスの副組長に立候補したり、心身を鍛えようと剣道部に入部するなど、小学・中学時代には消極的だった自分を変えようと努力したのだ。しかし、それも晩秋を迎えた頃には、剣道部を退部し、生活の核になるものが見つからず、2年に進級した。

勉学に特に秀でた訳でもなく、ただ一日一日を漫然と送っていたとき、日本史の授業で与えられた卒業論文が、ものを調べて何かをまとめる面白さを教えてくれた。タイトルは、古代国家の成立とその理想像で、拙い理解力の中で岩波新書などを読みすすみ、自分なりの論文をまとめて、先生から一定の評価を得たことが、その後の大学の学部選びや将来の方向性に大きな影響を与えてくれた。

古代史の一端を学びながら、歴史学や経営学への憧れを抱いた私は、臆げながら社会科教員になりたいとの夢をふくらませたように思う。結果は、法政大学経営

学部進学となったが、ここでも学びへの意欲を継続させ、3年間のゼミ所属を通じて、社会科学的な見方を身につけるとともに、第一志望だった私立高校の社会科教員になることができた。

(2) 高校社会科教員から経営指導団体への転職

埼玉県人間市にある高校の教員になって7年後、転職が訪れた。卒業生を2回ほど送りだし、中堅教員としてのステータジを迎えようとしていた頃、旺文社論文コンクールで二席入賞という栄誉を得て、自分自身の学びをもっと深めたいとの思いが芽生えた。そこで、無謀にも高校を退職し、法政大学大学院の社会科学研究科に席を置くことになった。

当然のことながら、無収入状態では困るので、代々木にある経営指導を行なう会社にアルバイトでの稼ぎ口を見つけた。3カ月も経った頃、その常務から正規職員にするという話もあって、勉学への気持ちが揺らぎはじめたある日、日経新聞の求人欄で社団法人日本能率協会(JMA)の求人広告を見つけた。応募してみたところ、すんなり就職が決まったため、大学院在籍をストップさせて、新たな職業人生を歩み始めた。

そこで、8年ほど業歴を積んだ後、JMAが東京工業大学大学院に冠講座を設置する企画が決まり、それに手を挙げた。100人を超える難関であったが、米国の准教授とともに、教員として2年間ほど研究の仕事に携わることとなった。

(3) 専門職大学院教授としての経験と3年F組メンバーとの交流

東工大での仕事を終えてJMAに戻った私には、残念ながらその経験を活かす場が与えられなかったこともあり、1年後には仕方なく退職して株式会社東経経営研究所に入職した。その2年後、独立して株式会社クリエティブマネジメント研究所を設立した。自社の事業開発に加えて、大前研一氏の主宰する事業会社とのコラボレーションや、経営・人事雑誌の連載、私大の非常勤講師(東洋大学含む3校)、書籍の執筆(合計12冊)などをこなした、10年目の或る日、日本教育大学院大学の設立に際して、教授として迎えられるという話が舞い込んだ。

振り返ってみると、早実での論文の作成に端を発した自分磨きの継続が、今日の自分にとって、大きな礎となっていることに気付かされる。近年は、浅草の大島起夫君や柳生貴也君らと夫婦通じての付き合いをさせてもらって、3年F組に居たことで得られる喜びに感謝している。昨今である。

卒業40周年を迎えて、これまでの人生を振り返ると、早実での3年間がいかに大事な歳月であったかを再確認する日々を送っている。この場を借りて、改めて杉仁先生、ならびにF組のメンバーにお礼を言いたい。

前・日本教育大学院大学
学校教育研究科 教授
株式会社クリエティブマネジメント研究所
副代表

早実の青春時代は永遠なり

沖島 祥介

現在は東京三鷹で建設会社の専務取締役として働いております。家族は長野に居て、月2回程帰って、リンゴ、ブドウなど自然とたわむれております。久しぶりに同級会に出席でき楽しかったです。



なぜか私が行方不明になっており、PCで「検索」し、それらしい人物を見つけたとの事。「検索」さまざまです。

40年ぶりの人は大勢いらっしゃいましたが、高校当時の基本的な顔つきは変わっていません。

名前を思いださないまでも「なつかしい」という想いで、なぜか喜び?が湧いてきました。

杉先生もおかわりなく、元気で喜寿を迎えられなによりです。

サミエル・ウェルマンの「青春の詩」ではないですが、皆、顔つきなどは変わったものの、気持ちは変わってなく、「青春」を感じました。これからも皆、元気でお会いできればと思います。

「早実の青春時代は永遠なり。」



健康で元気が一番の生活が送れることが何よりも幸せ

畠山 清治

電光石火のごとく過ぎた40年

卒業して40年経った今の私の気持を素直にお伝えしたいと思いますので、宜しくお願い致します。

振り返ると早実を卒業し40年と言う時間が電光石火のごとくあっという間に過ぎ、私たちもうじき還暦を迎える歳になりました。卒業したての18歳の頃を思い浮かべてみると還暦なんてその当時は考えてもいなかったと思いますが、皆さん如何でしょう。

同じ時間を過ごした学生時代と比べこの40年を振り返ると、皆さん夫々色々な人生を経験されたことと思います。私も卒業してから大人の世界に入り人生の荒波にさらされながら周りの人や友人、家族に支えられながら何とか今の自分がいます。

そんな様々な人生を歩んでこられた早実46年卒F組のメンバーが年に一度集う同窓会では、いつの間にか現実から40年前の時代に戻り、昔の早実時代に居る自分に気付くのは大変不思議な気持ちになります。そして、40年ぶりに会った同級生とも何の違和感もなく話が出来てお互いに学生時代に戻っているように思えるのも、大袈裟かも知れませんが私の人生において早実で過ごした時間が如何に貴重なものであったか、走馬灯のように甦ってきます。

幹事を経験して

たまたま昨年「卒業40周年と杉先生喜寿のお祝い」で幹事をさせていただき、今までの幹事の方々やこの会を陰で支えてくれた方々が苦勞して整理した名簿から音信不通や消息が分らない同級生に何とか連絡を取ろうとしました。その時に感じたのは「40年と言う時間の長さ」でした。年に一度の同窓会に来て頂くことが出来ない同級生はどうしているのか、その後どのような人生を歩んだのか、身勝手に

失礼とは思いましたが様々な思いを巡らしました。そして残念ながらほとんどの方に連絡が取れず、また、連絡を取らなければ知ることなかった事を知ってしまった気持ちは何とも言えませんでした。

一方で、毎年参加される同級生の顔ぶれはほぼ決まって来たような気がします。杉先生と大いに語り合い一緒に酒を酌み交わし、この時ばかりは“酔っ払いのおじさん”になっても気持ちは18歳の気分で盛り上がる事が出来る「早実46年卒F組同窓会」、出来ることなら少しでも参加者がこれから増える事を期待したいです。そして、杉先生といつものメンバーがこれから少しでも長く健康で毎年この会で再会出来ることを願わずにはいられません。

ちょっとセンチメンタル(古いですね)な気分になってしまいましたが、気持は若くても還暦間近が現実。これからは矢張り健康で元気が一番の生活が送れることが何よりも幸せであることを感じる今日この頃です。

最後にお礼を言わなければならない人へ、木下君いつも場所の提供と赤字覚悟の料理・お酒の提供、本当に有難うございます。今年は新しい店での同窓会ですかね。これからも宜しくお願い致します。



今日今頃

皆様お元気ですか？私は今までの悪さがたたって、長期入院中の身の上です。大好物の酒と煙草は取り上げられ、景気の悪さにやられ、温泉付の家まで持っていけませんでした。私の人生は良かったのか悪かったのか。今思えば杉組のメンバーは良い子。悪い子。奇人の子の3種だったと思う。大島の様にどれも入らない奴もいたが…。

武井 俊憲

人とは不思議なもので、学生時代親しくなかったのに同窓会で会うたびに、なぜかやたらいい奴だと思いをしている今日今頃である。
最後に杉沢、山田はじめ幹事の皆様、いつも楽しい時をつくる為に苦勞してくれて本当にありがとうございます。これからもよろしくね。



2011年暮れに妻・次男・長女と行った沖縄旅行

私には、57歳の秋一度死にました(正確には2度息が止まりました)。大動脈瘤破裂という病気で倒れ、緊急手術をし、心臓が止まり、下半身麻痺の障害者として生き返りました。その時感じたのが人生のリセット。今までは、家庭のため、子供のために仕事をしていたが、これからの人生を誰かのお役に立てればと感じました。そのために、まず考え方、言葉を、変えました。

私は、57歳の秋一度死にました(正確には2度息が止まりました)。大動脈瘤破裂という病気で倒れ、緊急手術をし、心臓が止まり、下半身麻痺の障害者として生き返りました。その時感じたのが人生のリセット。今までは、家庭のため、子供のために仕事をしていたが、これからの人生を誰かのお役に立てればと感じました。そのために、まず考え方、言葉を、変えました。

「今日も、元気だよろしく」「大丈夫、きつとうまくいく」「ありがとう、今なら出来る」「さあ、頑張ろう」人は、一人では生きていけません。ただ、周りの環境は変える事はできません。付き合う人との言葉を変え、関係も変わります。「ありがとう」と言えば、「ありがとう」という言葉が返ってきます。良い行動をとれば、良いことが起こります。他人をほめていけると、他人の悪口を言う人は近寄ってきません。



2011年12月 ライブハウスにて カントリーバンドでベースを演奏

貴重な経験

大橋 仁美

中学、高校時代の授業のことを思い出ししてみると、良く覚えていたのは、授業そのものよりも、その授業を通じて課題を与えられ、自ら取り組み調べたことです。杉先生から夏休みの宿題を出され、『荘園』と『下克上』についてレポートを出したような気がします。この頃から日本史が好きになったと思います。

荘園にしても、下克上にしても、貴族社会から武家社会に変遷していくなかで、必然的に生まれた事象であるというレポートの結論を導き出したところ、杉先生は、私の単純な発想を批判的に添削してくれました。それでもレポートを書いたことよりも、荘園のことや、下克上のことを、自ら調べて楽しかったという貴重な経験をする事が出来ました。

杉先生が現在取り組んでいる『在村文化』は、研究内容としては、とても難しく理解できませんが、具体的な文化の



長女・妻と

中身の『謡い』や『俳諧』のことを想像すると、現代の芸能や芸術につながる点や、その担い手の人間が見えてくる点で、興味深く捉えることが出来ます。我ながら堅い話ですが、堅い話に興味を持たせてくれたのが、杉先生の人間的な魅力でしょうか。

こちらバリ島です

柳生 貴也



「Bali Hai !!. Apa kabar?。」こちらバリ島です。半年間、家内とこちらに滞在していますが5月から10月頃までは乾季でとても過ごしやすいですね。気温は日中の室内が27、28度くらいで、朝晩は涼しく長袖が必要なくらいです。クーラーは要りません。また、物価も安く、最近の円高は海外在住者にはホントに有難いですね。皆さんも是非、極寒、酷暑と気候が過酷な日本を脱出して、バリ島へ一度、遊びに来てみませんか？ 修学旅行で当時問題化していた「公害」の町、四日市をバスで回ったのが記憶に残っています。いまバリ島を含むインドネシア全土が丁度、その辺のことを考えなくてはならない時期に来ていると思います。海岸清掃等、現地在住の日本人が実施している「クリーンアップ・バリ！」の運動に私も微力ながらカメラマンとして参加しています。(フォト・ライター 柳生)

早実の絆と亡くなった級友の思い出

杉沢 智昭

2006年、早実の高校野球夏の甲子園大会優勝祝賀会を兼ねて、十数年振りに3Fクラス会が開かれた。これをきっかけに毎年杉先生を招き、クラス会が開かれている。改めて絆を思い出させてくれた後輩たちに感謝すると同時に、今回のこの機会に亡くなった級友たちを振り返った。



佐々木を誘って行った大阪万博



佐々木とは、高3の夏、一緒に大阪万博へ行った。武井・阿久津・池田も一緒だった。佐々木を除いては、長野県鬼無里村の学生村へ行ったメンバーだ。琵琶湖畔に泊まり、京都・大阪へと繰り出した。この時はみんなあまり主体性も計画性もなく、京都見物しようぜとかいって、行き先も確かめずにバスに乗り、中心からどんどん離れて行ったり、炎天下の中、地図もなく延々と歩いたりした。

佐々木は静かな男で、自分で何かを主張するということはないけれど、一緒にいて居心地のいい奴だった。みんなの話をいつもニコニコしながら静かに聞いていた。当時ブルーコメッツの三原綱木に似ていると言われていた。自分も含め、みんなと一緒にいるのが楽しい時間だったのと思う。

大阪では「どうしても行きたい！」という人のおかげで、道頓堀のストリップ劇場へ行くことになった。生板ショーをやっていた。最初はみんな緊張していたが、だんだん劇場の雰囲気とともに和んでいった。(感激のあまり、後で単独行動で再訪した者もいた。)

万博だが、イギリス館でビートルズの「Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band」が流れており、曲に合わせて“ヒッピー”たちが座り込んで手拍子していたり、ヘッドホンがあって、聴いてみるとやはりビートルズのアビーロードに入っている「Sun King」だったことがやけに印象深い。多分無計画さや混雑のせいで、空いているパビリオンしか回らなかったのではないと思う。

肝心の万博より、他のことが印象に残る、みんなが無計画さを満喫した夏だった。

妹尾に借りっ放しのレコード



妹尾とは高校3年の終わり頃から仲良くなった。きっかけは変則ギアのドロップ型自転車をくれるということだった。トヨタのマークIIを買ってもらい、自転車はもう不要になったらいい。それまでは妹尾とはごく普通のクラスメートで、このきっかけがなかったら、思い出も大してなかっただろう。

ある日の土曜日、妹尾の家へ自転車をもらいに行った。家業は縫製を営んでいた。

ただ自転車をもらって帰されるわけでもなく、レーシングカーで遊ぼうということになり、広い作業スペースにレーシングカーのレールを敷き詰め、一緒に遊び始めた。それから適当なピアノ伴奏で歌を歌った。その後、妹尾の部屋に入ると、ジョニーウォーカーなど洋酒の瓶がズラッと棚に置かれていた。そしてお勧めの曲を聞かせてくれた。「これもいい曲だぜ」という感じで、レターメンの「Mr.lonely」、サイモンとガーファンクルの「I am a Rock」など、それにビートルズナンバーいろいろ。みんなとても新鮮だった。

結局この日は泊めてもらった。友人宅での初めての外泊だった。

翌日もらった自転車に乗って帰ろうとした時、「着いたら、電話しろ」と言われた。彼の家は江戸川区の一之江で、自分は葛飾区の金町で、方面としては同じだったが、当時は環七がまだ全面開通していなくて、道程を心配してくれたらいい。学校では感じなかったけれど、けっこう気遣いするいい奴なんだなと思った。約束通り、家に着いて電話をした。

それ以後、何回か遊びに行くようになり、行くとき泊まっていけということになった。行く時はギターを持って行った。音楽の話や、お互い美術・デザイン方面に進むということで通じるものがあり、そういうことになったのだと思う。だんだん複雑な家庭の事情なども話してくれるようになった。歌が好きで、ビートルズナンバーの伴奏をリクエストされた。そして行く度にお勧めのレコードを借りてきた。

マークIIで妹さんの茨城の学友の家へ遊びに行き、手賀沼でボートに乗ったり、卒業後も妹尾の一番の親友、瀬古が外国へ行くのでお別れ記念に遊びに行こうと誘われ、千葉の海に行ったりした。千葉の海では夜のうちに掛け、やはりギターを持って行った。キャンプファイヤーをし、車の中で寝た。

しばらくしてこのマークIIでの事故があり、借りていたレコードは手元に残ってしまった。その後ビートルズ関係はCD、ビデオテープ、リミックス版CD、DVDと海賊版まで含めて買いそろえ、レコードを掛けることはなくなっていったが、何回聴いたかわからない借りたレコードは今でも大切に保管してある。

とくに開通している環七の一之江辺りを車で走ることがあると、妹尾がいたら、ちょっと寄りたのにな…と今でも思う。妹尾は先に逝ってしまったけれど、自分の中ではずっと生きており、いつまでも大切な友人だと思っている。

もう一度話してみたかった駒崎



駒崎は苦手だった。ギョロツとした目で睨まれると、なんとも見下されているような気がした(多分本人にとっては普通の表情だったのだろう)。そのことを別のクラスメートに話した時、まったく違う側面が語られた。先入観だけで人を見ていた自分を反省した次第だ。クラス会に出てくれている仲良くなれたかもしれないが、卒業後話す機会もなく亡くなってしまった。駒崎がいい奴だったという証拠は三敬新聞最終号の投稿「一人漫才」をみても、よくわかる。(本誌21ページ)

人間は表面だけではわからない。何かのきっかけで話をし、共感を持ち、また会うようになる。現に卒業後に会うようになったり、クラス会がきっかけで付き合い出した級友もいる。これからもこの「絆」を大切にしていきたい。

早実を卒業してから

私は早実を昭和46年に卒業して早稲田大学の教育学部、中央大学法学部を卒業。司法試験浪人を何年か続け精神的に随分参っていた頃、亡父の友人だったK氏に再会。氏は私の中学時代の家庭教師で、その後出世して、当時ある大学の教授をする傍ら、人づてに頼まれた医学部受験生・浪人生何人かの面倒を見ていた。当時の私の生活態度を『寄生虫』と面罵され、以後主従関係となり、3年間の書生生活の末、31歳の医学生が出来上がった。医者になったのが平成元年で、キャリア24年目の精神科医だ。大学病院、精神病院、診療所、都市銀行の健康管理センター、行き倒れの人で精神的な問題がありそうな人の保護の為に判定業務、等々の経験を経て、平成20年4月に精神科の診療所を開設した。臨床のかたわら特別支援学校の校医、区民のための保健所の精神保健相談もしている。

医者と製薬資本による『病気作り』

さて、何をどう書けば良いのか迷ったが、いまさら精神科の病気や治療について、くどくど言ってもつまらない、そんな事は『新聞の健康欄』や『NHKの特番』でいくらでも知る事が出来る。これを読んだ人だけが凄く得をするスペシャルな内容にしたい。前置きが長くなったが、『disease mongering』という耳慣れない言葉について記したい。これは、『病気作り』『病気喧伝』とでも訳するのが適当で、或る病気が突然脚光を浴びる事があるが、いきなり日本でその病気が多くなる訳ではない。背景には、医者と製薬資本による『病気喧伝』が潜んでいる。これは、正常範囲内の体の不調を指し『病気だ！病気だ！何とかした方がいい！』と騒ぎたて『医者にかかった方がいい！』『薬を使った方がいい！』『治療しないとまずい事になる！』と説いてまわる様なものを想像すればいいだろう。

巨大製薬資本は『医薬品』の潜在的需要が、病気と健康との中間領域に存在する事を知り尽している。それで、巨大市場を求めて『逆流性食道炎』『過活動膀胱』『脱毛症』『勃起障害』などの境界領域を狙い、研究開発費をはるかに凌駕する巨大な予算を広報活動に投入する。販売促進の為に『疾患啓発キャンペーン』は度が過ぎれば病気喧伝と紙一重となり、かくして疾患イメージは増幅され、医者達は無邪気にも踊り始める。世間一般の人が見れば、『医者と製薬会社が一緒になって儲けようとしている。』と思われても仕方がない。

『うつ病患者』は本当に増えているか？

精神科領域ではここ十数年前から『うつ病患者が増えている』と言われ続けている。この10年以上、毎年毎年、自殺者が3万人以上いる。この人たちの『死の直前』はうつ状態

だった事だけは確かだろう。(明るく、元気に、楽しく死ぬる訳がない。)そして、自殺はその多くを防止出来たかも知れない。ここで登場するのが『精神科』だ。この2年くらいで聴かなくなった『うつはこころの風邪』だから早く治療しましょう、という恐るべきキャンペーン。うつ病は薬が良く効く病気で、早期の治療を、と『無責任に』呼びかけて、『抗うつ薬の使用量が10倍伸びた』事は世間には知られていない。そして、これが始まった年が、1999年だった。この年は、日本で初めて『SSRI』という新薬が登場した年だった。

乱発されていった『うつ病』

SSRIを処方するには、保険病名に『うつ病』をつけなければならない。この薬が世間に浸透するのと同時にうつ病が増えていった。更に、驚くべき事実、精神科医が処方するだけでは少なすぎる。ある巨大外資系製薬会社は、ある薬を内科医に売り始めた。マーケティングは大成功して、この薬は抗うつ薬の世界シェアNo.1になった。かくして内科医がうつ病を診断し、精神科医もうつ病という保険病名を乱発していった。おかしな現象だ。

確かに、良く効く薬も多い。それで精神科医は薬物療法に頼っていった。診断根拠もどんどん曖昧になり、どんどん抗うつ薬が処方されて行く。精神科医の診断能力はどんどん低下し、精神科医は薬物療法しか出来なくなってきている。

そして、NHKの特別番組・うつ病の最新治療の登場。先日の『磁気治療器』の効果発現のベースになっている『仮説』は現在の通説で、恐らく正しいだろう。そして、現在使用されている抗うつ薬の多くは『薬理作用』によって同じ事をしている。少し、目先が変わって、凄い事の様に見えても、根本は同じ考え方に依っているのだ。

良い医者を見分ける方法は？

では『うつ病』に代表される精神疾患は、医者が無理やりに付けた病名で、必要も無い治療をしているのだろうか？

前述した『逆流性食道炎』や『脱毛症』などは、

- ①『致死性がない事』
- ②『潜在的に膨大な患者がいる事』
- ③『慢性的な経過をたどる事』

という共通点がある。つまり、治療してもしなくても、どうでも良いものなのだ。

しかし、精神疾患はどうだろう？②と③は同じく云えるが、①の『致死性』という点では共通ではない。考えてみて欲しい。うつ病で『自殺』をした家族は生涯にわたり苦しむだろう。上司は？はからずも他者を自殺に追い込んでしまった人は？マクベスと同じに、生涯安らかな眠りを得られないかも知れない。これ程までに質的に違うものを一緒にたにして



11歳下の妻と10歳の一人息子と

しまっている世情に注意すべきだ。

安易に『近くだから』『昔から診てもらっているから』『空いているから』などの理由で内科やほかの科の医者にも精神科領域の薬を処方してもらわない方が良い。診断能力の無い精神科医(その多くは内科・小児科・外科・心療内科などと看板を出している)の治療も受けない方が良い。

良い医者にかかれという事なのだが、見分ける方法は簡単。『訊く事』だ。診断名は？診断の根拠は？治療薬の機序(薬が効く理屈)は？薬以外に何が出来るか？この位を質問して納得がいけばまず大丈夫。

またまた、金銭的な話になってしまうが、世界的に売れている薬のランキングをみると、高脂血症と精神科領域の薬が圧倒的に多いという事も世間には知られていない。体の事で云えば、日本人の2人に1人は癌に罹る世の中だ。精神疾患も増えているのは事実だが、実は、裏の事情としてはこんな事もあるのだという、誰も言わない、だから誰も知らない事をこっそりと聞いてもらった。

ヒポクラテスの誓い

医者は初めにヒポクラテスの誓いというのを自らたてている(と僕は信じている)。その一節に『……私は能力と判断の限り患者に利益すると思ふ養生法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない……』というくだりがある。医者になって何年かすると、周囲から先生・先生と呼ばれ偉くなった様な気がして、ヒポクラテスの事など直ぐに忘れてしまうのだろう。いつまでも青臭い事を言っている医者が、ここに居て、それがみんなと同じ『早実出』なんだぞと、いつも誇りに思っている。同級生が困ったらいつでも相談に乗る。家族の事でも、友人の事でも……。

まとまりの無い事ばかりを書いた様で恐縮。僕は『鶯谷メンタルクリニック』という診療所をやっている。しょぼいホームページが更新されないままあるから、必要なら調べてくれ、いつでも大歓迎だ。

ではまた、いつか、会いたいね。誘ってよ。

近況

(クラス会案内返信ハガキより)

青木 敏雄

年中何かと忙しく、それが何より?と思うようにしております。

阿久津 俊昭



毎年最大の楽しみにしていましたが、出張とぶつかってしまい欠席です。早実の決勝戦のことや、日本ハムの斉藤のこと、日本経済の今後の景気や高齢化社会への備えなど話題はつきませんし、なによりも喜寿をお迎えになる杉先生にはお会いしたかったのですが、杉先生そして皆さんに宜しくお伝えください。

井上 雅由

ご無沙汰しております。クラス会前後に孫の出産予定ですので自宅待機状態になります。皆様に宜しくお伝えください。

小堤 正一

昨年同様県立新座高校に勤務しています。早実のホームカミングデイ対象は卒業35年、45年、50年だったのですね。残念！5年後まだ元気だったらみんなで参加しましょう。



乙黒 幹雄

クラス会のお誘い、毎度、有難う御座います。当方、元気で日々過ごしています。今回のクラス会の日に、旅行中で、帰れません。皆様に宜しくお伝えください。

斉藤 邦男

4年前に捕手時代の酷使による半月板損傷で歩行困難となり膝の手術をしました。歩行は退院後すぐ可能でしたが好きなゴルフが1年間できず、やっと昨年コースに出られる程に回復して安心しています。もし、膝の悪い方がいれば病院を紹介しますのでご連絡ください。



嶋村 延宏

仕事の為欠席致します。皆様によろしくお伝えください。

霜田 勝美

是非出席させていただきたいのですが、今年から「キャンピングカー事業部」を立ちあげて、クラス会当日は名古屋での展示会予定が入っています喜寿のお祝いを協力させていただきたいので振込先をお知らせください。皆様によろしくお伝えください。



仲川 雅治

先日は連絡を頂きありがとうございました。丁度ハワイから戻った所でした。6月から3ヶ月あちらにいました。55才でのリタイアを目指しましたができず、一昨年待望のリタイアを実行しました。数年前にハワイに小さな住まいを買い、リタイア後は半年をあちらで暮らすこととしました。

子供は二人で、長男は製薬会社で抗がん剤の開発部門に勤務、次男は明治大学大学院理工学研究科の修士1年です。私は10年来血糖値が少々高く薬を服用しており、家内は数年前に乳がんの手術をしましたが二人共元気で大好きな酒を毎晩欠かしません。先生はじめ皆さんも酒をほどほどにして、体の検査を欠かさずお元気でご活躍ください。(PS)1年F組の加藤照夫(自営)、石田美郎(自営)、逸見真琴(損保ジャパン勤務)とは年に2~3回飲み会をやっています。皆元気でです。



西澤 正雄

元気にやっています。土曜日は仕事のため欠席ですが皆様に宜しくお伝えください。

平下 一郎

特に変わりません。宜しく申し上げます。

★お願い：行方不明者の消息を知っている方は、記念ブック編集員までご連絡ください。

痛烈!? 3F三敬新聞評

一人漫文

どこの誰だかしらないけれど、誰もがみんな知っている
○○○○のおじさんは……

「三Fサンケイ(三敬)新聞はくだらない!先生の悪口を書き、社会のためになること、勉学に役立つことが全くない、こんなものを読む暇があったら本当の新聞(つまり全国民が愛読している産経新聞)を読んだ方がましだ!」

「書く奴も書く奴だ!第一に顔がまずい、第二に遊びばかりしている(特に釣り海釣り?丘釣り?)第三に居ねむりばかりしている。こんなつまらない新聞(いやただの紙切れかもしれない!)はもう二度と読みたくない!」

……と思う奴はオレの家に来い。

オレがぶっ飛ばしてやる。家がわからなければ最後に住所と氏名を書いておくよ。オレが思うには試験が近づいたり、原稿を夜おそくまで作ったりしてたいへんだったと思う。それになにより苦労したせいかアイデアに富んでいて、もろっのが楽しかったよ。きっとみんなもそうだと思うよ。よくやったよ。拍手を送ってやるうぜ。

パチパチパチパチパチパチ……でも最後の方の「第二はあってるかもしれないヨッ。」

最後に名前は駒崎尚宏

住所は埼玉県蕨市中央3-12-18 〒335 Don't forget

Time machine

過去を知って、
未来を認識すべし！



資料作成：梅原和彦

1969年

話題・事件

●東大安田講堂占拠事件(1月) / ●セブンスター発売(2月、100円) / ●夕刊フジ創刊(2月) / ●中ソ国境紛争勃発(3月) / ●ジョン・レノンとオノ・ヨーコ、アムステルダムのホテルで平和アピールの「ベッド・イン」(3月) / ●連続ピストル射殺事件・永山則夫逮捕(4月) / ●国鉄グリーン車登場(5月) / ●東名高速道路(東京―小牧間)全線が開通(5月) / ●新宿西口フォークゲリラ地下広場事件(6月) / ●アポロ11号月面着陸・アームストロング船長(7月) / ●千葉県松戸市「すぐやる課」(10月) / ●全米ベトナム反戦デモ(10月) / ●金田正一、400勝達成(10月) / ●沖縄72年返還で日米共同声明(11月) / ●池袋に「パルコ」開店(11月) / ●女子プロボラー誕生(須田佳代子、中山律子、並木恵美子) / ●横綱柏戸引退 / ●尾崎将司プロゴルファーに転向

流行語・CM

●あっと驚くタメゴロー / ●やったぜ・ベイビー / ●それを言っちゃーおしまよォ / ●エコノミック・アニマル / ●チンタラ / ●ワルノリ / ●断絶の時代 / ●情報化社会 / ●教育ママ / ●オー・モーレツ(丸善石油) / ●みじかびの〜はっぱふみふみ(パイロット) / ●クリーブを入れないコーヒーなんて(ネススル)

番組開始

●クイズ・タイムショック / ●ヤングOh! Oh! / ●8時だよ全員集合 / ●巨泉・前武ゲバゲバ90分 / ●コント55号! 裏番組をぶっとばせ!! / ●プレイガール / ●柔道一直線 / ●水戸黄門 / ●鬼平犯科帳 / ●紅白歌のベストテン / ●唄子・啓介のおもしろい夫婦 / ●サザエさん / ●ムーミン / ●アタックNO1 / ●連想ゲーム / ●天と地と / ●鬼警部アイアンサイド / ●宇宙大戦争・スタートレック / ●セイヤング(文化放送)

映画・出版(掲載)

●ニュージーランドの若大将(シリーズ第一作) / ●心中天網島 / ●私が棄てた女 / ●明日に向かって撃て / ●イージー・ライダー / ●アリスのレストラン / ●女王陛下の007 / ●真夜中のカウボーイ / ●ウッドストック / ●ヘアー / ●男はつらいよ・フーテンの寅(第1作) / ●ゴルゴ13 / ●赤頭巾ちゃん気をつけて(庄司薫、芥川賞) / ●青春の蹉跎(石川達三)

ヒット曲

●白いブランコ(ビリー・バンバン) / ●風(シューベルツ) / ●時には母のない子のように(カルメン・マキ) / ●昭和ブルース(ブルーベル・シンガーズ) / ●白い色は恋人の色(ベッツィ&クリス) / ●ある日突然(トワエ・モア) / ●長崎は今日も雨だった(内山田洋とクールファイブ) / ●夜明けのスカット(由紀さおり) / ●港町ブルース(森進一) / ●君は心の妻だから(鶴岡雅義と東京ロマンチカ) / ●恋の奴隷(奥村チヨ) / ●どしゃぶりの雨の中で(和田アキ子) / ●人形の家(弘田三枝子) / ●いいじゃないの幸せならば(佐良直美) / ●愛の化石(浅丘ルリ子) / ●ひとり寝の子守唄(加藤登紀子) / ●夜と朝のあいだに(ピーター) / ●あなたの心に(中山千夏) / ●今日でお別れ(菅原洋一) / ●ミヨチャン(ザ・ドリフターズ) / ●黒ネコのタンゴ(皆川おさむ) / ●雪が降る(アダモ) / ●ゲット・バック(ビートルズ) / ●ホンキー・トンク・ウィメン(ローリング・ストーンズ) / ●アクエリアス(ミュージカル「ヘアー」主題曲) / ●マイ・ウェイ(フランク・シナトラ)

物価

●ビール(中瓶): 130円 / ●かけそば: 80円 / ●週刊誌: 70円 / ●封書: 15円 / ●はがき: 7円 / ●国鉄最低料金: 30円 / ●新聞(月): 750円

1970年～1971年3月

話題・事件

●日航「よど号」事件(3月) / ●an・an創刊(3月) / ●日本万国博覧会(3～9月) / ●エフエム東京開局(4月) / ●日米安保条約継続(6月) / ●歩行者天国スタート(8月) / ●三島由紀夫割腹自殺(11月) ※第一報は杉先生より教室にて / ●人口1億人突破 / ●世界貿易センタービル完成 / ●スモン病患者、チクロ入り粉末ジュース事件 / ●光化学スモッグ / ●トヨタセリカ発売(57万円) / ●日刊アルバイトニュース創刊 / ●三浦雄一郎エベレスト滑降 / ●植村直己マッキンリー単独登頂 / ●大場政夫世界フライ級チャンピオン / ●中山律子女子プロ初パーフェクトゲーム / ●ザ・タイガース解散(1971. 1) / ●米中ピンポン外交(1971. 3) / ●多摩ニュータウン入居開始(1971. 3) / ●成田新空港反対闘争 / ●日活ロマンポルノ / ●青島幸男が佐藤首相を「総理は財界の男めかけ」と批判(1971. 3)

流行語・CM

●ウーマン・リブ / ●三無主義(無気力・無関心・無責任) / ●しらける、わるのり、鼻血ブー / ●男は黙ってサッポロビール / ●違いがわかる男(ネススル) / ●ディスカバー・ジャパン(国鉄) / ●戸弁楽に行こーよ、俺たちは〜(モービル石油) / ●戸振り向かないで、素敵な髪のアナタ〜(ライオン) / ●ダーバン(レナウン) / ●マンダム(丹頂)

番組開始

●ステージ101 / ●あしたのジョー / ●時間ですよ / ●大岡越前 / ●遠山の金さん / ●遠くへ行きたい / ●NHKのど自慢 / ●ハレンチ学園 / ●おくさまは18歳 / ●細うで繁盛記 / ●縦の木は残った(NHK大河ドラマ) / ●ネコジャラ市の11人 / ●(コント55号の野球拳! 打ち切り) / ●日本史探訪 / ●氷点 / ●新婚さんいらっしゃい!

映画・出版(掲載)

●どですかでん / ●戦争と人間 / ●ソルジャー・ブルー / ●いちご白書 / ●レット・イット・ビー / ●エルビス・オン・ステージ / ●私は好奇心の強い女 / ●ドラえもん / ●男どアホウ甲子園 / ●ワル / ●銭ゲバ / ●ダメおやじ / ●ド根性ガエル / ●子連れ狼

ヒット曲

●竹田の子守唄(赤い鳥) / ●走れコウタロー(ソルティエール・シュガー) / ●戦争を知らない子供たち / ●誰もいない海(トワ・エ・モア) / ●圭子の夢は夜ひらく(藤圭子) / ●希望(岸洋子) / ●四つのお願い(ちあきなおみ) / ●京都の恋(渚ゆう子) / ●男と女のお話(日吉ミミ) / ●手紙(由紀さおり) / ●黄色いサクランボ(ゴールデン・ハーフ) / ●知床旅情(加藤登紀子) / ●傷だらけの人生(鶴岡浩二) / ●ブラック・マジック・ウーマン(サンタナ) / ●レット・イット・ビー(ビートルズ) / ●長い夜(シカゴ) / ●ヴィーナス(ショッキングブルー) / ●クロス・ツー・ユー(カーペンターズ) / ●明日に架ける橋(サイモン&ガーファンクル) / ●雨に濡れても(明日に向かって撃て主題曲) / ●花嫁(はしだのりひことクライマックス、1971. 1) / ●また逢う日まで(尾崎紀世彦、1971. 2) / ●あの素晴らしい愛をもう一度(加藤和彦&北山修、1971. 3) / ●よこはま・たそがれ(五木ひろし、1971. 3) /

物価

●ビール(中瓶): 140円 / ●かけそば: 100円 / ●タクシー基本料金: 130円 / ●大卒初任給: 4万961円 / ●理髪: 550円 / ●40代父親の小遣い月: 6,346円 / ●寿司(並): 250円 / ●即席ラーメン: 30円 / ●銭湯(大人): 38円 / ●タバコ(ハイライト): 80円

3F Address LIST

<p>杉 仁先生 〒143-0023 東京都大田区山王4-28-1 TEL.03-3775-1494 / FAX.03-3775-1494 eメール: sugi-h@w2.dion.ne.jp 近況: 在村文化研究・学術書執筆 ※2012年1月ご逝去</p> <p>1. 青木 敏雄 〒111-0051 台東区蔵前4-10-3-604 TEL.03-3864-5827 / 携帯: 090-1617-1233 近況・備考: 会社勤務</p> <p>2. 青島 良和 近況: 行方不明</p> <p>3. 阿久津 隆昭 〒330-0056 埼玉県さいたま市浦和区東仲町5-7-1005 TEL.048-606-8054 / 携帯: 080-5028-6525 会社TEL.03-3379-5211 eメール: akutsu@yoyogi-law.gr.jp 近況: 代々木総合法律事務所勤務</p> <p>4. 井口 哲夫 〒359-1161 所沢市狭山ヶ丘1-3008-2 ユアコート狭山ヶ丘コンフィア804 TEL.04-2936-7783 / 携帯: 090-6148-3420 eメール: hand3812b@yahoo.co.jp / tetsuo.iguchi@ezweb.ne.jp 近況: (株)クリエイティブマネジメント 研究所 副代表</p> <p>5. 池田 博 近況: 行方不明</p> <p>6. 伊月 浩 近況: 行方不明</p> <p>7. 井上 雅由 〒222-0022 横浜市港北区篠原東2-9-13 TEL.045-401-9565 近況: 大日本住友製薬勤務 http://www.ds-pharma.co.jp</p> <p>8. 上野 仁 〒106-0031 港区西麻布2-18-2 TEL.03-3409-0386 / 携帯: 070-5596-2614</p> <p>9. 梅原 和彦 〒192-0363 東京都八王子市別所 2-21-4-701 / ノ由木坂 TEL.042-679-0920 / 携帯: 090-2667-0695 会社TEL.03-5205-8581 eメール: kzhumhr28@docomo.ne.jp umehara1121kkyr@key.ocn.ne.jp / 近況: 三菱UFJキャピタル株式会社常勤監査役 http://www.mucap.co.jp/</p> <p>10. 大澤 祐太郎 〒335-0014 戸田市喜沢南1-4-17-416 TEL.048-432-6356 / 携帯: 080-5377-2255 eメール: yuta1953@df7.so-net.ne.jp / osawa.1953@ezweb.ne.jp 近況: 埼京タクシー株式会社勤務</p> <p>11. 大島 起夫 〒111-0032 東京都台東区浅草5-39-4 TEL.03-3876-8739 / 携帯: 090-4740-9622 /会社TEL.03-3874-6780 eメール: asatonny6010tatu@ybb.ne.jp 近況: スポーツ用品会社オオシマ経営、 浅草浅遊會顧問</p> <p>12. 大橋 仁実 〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-58-16 TEL.03-3800-7627 / 携帯: 090-1882-1135 /会社TEL.03-5248-0318 eメール: ichigo-ho@mbn.nifty.com / hito-3753.7753@docomo.ne.jp 近況: (株)一期保険事務所保険事務所役員 http://homepage2.nifty.com/ichigo /</p>	<p>13. 沖島 祥介 〒180-0013 武蔵野市西久保3-2-22-603 TEL.0422-52-0680 / 携帯: 090-1839-8666 /会社TEL.0422-52-0909 eメール: shousuke@okishima.co.jp 近況: 沖島工業株式会社専務取締役 http://www.okishima.co.jp/index0.html</p> <p>14. 小堤 正一 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 3-15-24 TEL.03-3987-2662 / 携帯: 090-6005-2334 / 職場TEL.048-479-5110 eメール: ozu123@a.toshima.ne.jp / j671311@pref.saitama.lg.jp 近況: 埼玉県立新座高等学校校長</p> <p>15. 乙黒 幹雄 〒279-0011 千葉県浦安市美浜3-30-3 TEL.047-353-1366 近況: (合) 広尾キネマ経営</p> <p>16. 金森 謙二 〒338-0001 さいたま市中央区上落合 3-10-2-106 TEL.0488-52-9925 近況: 城北信用金庫勤務</p> <p>17. 木下 徹 〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-12-6 そば処あさひ TEL.03-3985-5008 / 携帯: 090-4018-9914 / 職場TEL.03-3971-6264 eメール: k_tooru@t.toshima.ne.jp / asahi5126tooru@docomo.ne.jp 近況: そば処あさひ経営</p> <p>18. 駒崎 尚宏 〒335-0004 埼玉県蕨市中央3-12-18 TEL.0484-31-2073 近況: ご逝去</p> <p>19. 斉藤 邦男 〒164-0002 東京都中野区上高田3-14-14 TEL.03-3386-5491 / 携帯: 090-9677-2084 eメール: k-saito@x-kinzokushoji.co.jp 近況: JX金属商事取締役 http://jx-kinzokushoji.com</p> <p>20. 斉藤 竜也 近況: 行方不明</p> <p>21. 佐々木 康雄 〒112-0001 東京都文京区白山4-6-6 TEL.03-3946-7965 近況: ご逝去</p> <p>22. 島村 延宏 〒125-0061 葛飾区亀有3-42-20 TEL.03-3602-0038 近況: 料理長</p> <p>23. 清水 一 近況: 行方不明</p> <p>24. 霜田 勝美 〒229-0031 神奈川県相模原市相模原 4-3-15-603 TEL.042-853-8821 / 携帯: 090-3106-3856 /会社TEL.042-763-0050 eメール: stage2@d8.dion.ne.jp 近況: 自動車アクセサリー製造販売、 レストラン経営、バリ島ケアハウス(株) Stage21 経営 http://www.stage21.co.jp/top.html</p> <p>25. 菅野 重雄 〒251-0032 藤沢市片瀬1-2-27 TEL.0466-26-2436 / 携帯: 090-4620-4963 eメール: s.1227.katase@docomo.ne.jp 近況: 銀座ヨシノヤ勤務</p>	<p>26. 杉沢 智昭 〒125-0041 東京都葛飾区東金町5-29-3 TEL.03-3609-2291 / 携帯: 080-6649-5165 会社TEL.03-3238-9226 eメール: sugisawa@plade.co.jp / tomo77.sgsww@softbank.ne.jp 近況: デザイン会社株式会社プラデ経営 http://www.plade.co.jp</p> <p>27. 鈴木 秀幸 〒120-0016 埼玉県戸田市下前2-1-5-310 TEL.048-441-4609 近況・備考: ファッション関係勤務</p> <p>28. 重田 雅敏 〒355-0016 東京都足立区千住旭町2-8 TEL.03-3881-1331 / 携帯: 090-2203-3346 /職場TEL.03-3604-6435 eメール: shigetam@vmail.plala.or.jp 近況: 東京都立葛飾盲学校中学部 社会科教師 http://www.katsushika-sb.metro.tokyo.jp</p> <p>29. 瀬古 伸弥 近況: 行方不明</p> <p>30. 妹尾 雅行 〒132-0024 東京都江戸川区一之江 4-21-30 TEL.03-3652-6341 近況: ご逝去</p> <p>31. 高島 盛雄 近況: 行方不明</p> <p>32. 高原 俊善 近況: 行方不明</p> <p>33. 武井 俊憲 〒331-0059 さいたま市西区水判土 4026-1 ※実家 携帯: 090-2161-6641 eメール: tt-1007ht-310@docomo.ne.jp 近況: 療養中</p> <p>34. 竹内 孝男 近況: 行方不明</p> <p>35. 千代 孝夫 近況: 行方不明</p> <p>36. 角田 匡 〒157-0066 東京都世田谷区成城 6-32-12 TEL.03-3789-6552 / 会TEL.03-3831-8374 近況: 製本会社経営</p> <p>37. 月村 昭 実家TEL.03-3422-3797 近況: 行方不明</p> <p>38. 仲川 雅治 〒133-0057 東京都江戸川区西小岩3-35-4 モアベックス102 TEL.03-3657-5637 / 携帯: 090-3523-2309 /会社TEL.03-3619-4411 eメール: m3nakagawa@aol.com 近況: (株)ナカガワ工業 取締役</p> <p>39. 中村 修二 〒359-0015 所沢市日比田757 TEL.04-2944-9457 近況: 陶芸制作</p> <p>40. 西沢 正雄 〒389-0821 長野県千曲市上山田温泉 1-59-1 TEL.03-3775-1494 / 携帯: 080-5143-5562 / 職場TEL.03-3775-1494 eメール: nagano@koishinoyu.co.jp 近況: 旅館小石の湯 正明館経営 http://y.gnavi.co.jp/102483/</p>	<p>41. 野口 昌孝 〒177-0045 練馬区石神井台3-2-44 TEL.03-5934-1526 / 携帯: 090-4627-3673 /職場TEL.03-6662-6152 eメール: clinic@uguisudani-clinic.jp 近況: 精神科医師、メンタルクリニック ・鶯谷メンタルクリニック経営 http://www.uguisudani-clinic.jp</p> <p>42. 野島 輝昭 〒156-0012 東京都世田谷区桜上水2-13-6 TEL.03-3302-6189 / 携帯: 090-8409-5059 eメール: teruaki-nojima@notes.tokyo.isuzu.co.jp 近況: 東京いすゞ自動車株式会社 勤務</p> <p>43. 芳賀 誠二 近況: 行方不明</p> <p>44. 畠山 清治 〒143-0012 東京都大田区大森東3-2-14 TEL.03-3768-3460 eメール: hatakeyama@fibest.com / sa_hata5176m@docomo.ne.jp 近況: ファイベスト株式会社 監査役 http://www.fibest.com</p> <p>45. 原 俊明 〒186-0004 国立市中野三丁目5-9 TEL.0425-72-1588 近況: 宅配会社経営</p> <p>46. 平下一郎 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 520 TEL.03-3203-1060 / 携帯: 090-8016-8310 近況: 不動産賃貸経営</p> <p>47. 古山 博 〒171-0012 東京都豊島区上池袋2-42-7 ※実家 TEL.052-702-0442 / 携帯: 090-5275-5283 実家TEL.03-3916-9066 近況: 製薬会社勤務</p> <p>48. 松島 勝 近況: 行方不明</p> <p>49. 馬渡 渉 〒245-0067 神奈川県横浜市戸塚区深谷町 929-6 TEL.045-852-3376 / 携帯: 090-4072-5456 / 会社TEL.03-3563-9165 eメール: mawatari.wataru@eneos-frontier.co.jp /tm26rqbuaixs6xws235q@docomo.ne.jp 近況: 株式会社ENEOSフロンティア 常務取締役・直売事業本部長 http://www.eneos-frontier.co.jp/</p> <p>50. 茂木 憲司 近況: 行方不明</p> <p>51. 柳生 貴也 〒179-0074 東京都練馬区春日町 3-19-12 TEL.03-5241-0187 / 携帯: 080-5093-0187 eメール: taka8823@jcom.home.ne.jp 近況: インドネシアに期間移住</p> <p>52. 山田 雅春 〒359-0001 埼玉県所沢市下富1253-17 TEL.04-2942-1207 / 携帯: 090-8580-1237 eメール: powerofthedream@dream.com / yamapee.1221@docomo.ne.jp 近況: 自宅療養</p> <p>53. 渡部 薫 〒167-0031 東京都杉並区本天沼2-30-7 TEL.03-3397-1446 近況: 会社勤務</p>
---	---	---	---

早実 3F Memorial Book

杉先生徳川賞受賞・
喜寿お祝い &
早実3F卒業40周年記念号

2012年3月15日発行 (非売品)
制作: 昭和46年卒・3F記念ブック制作委員会
編集長・デザイン/レイアウト: 杉沢 智昭
編集委員: 馬渡 渉・畠山 清治・大島 起夫・
梅原 和彦/原稿協力: 杉 仁先生、3FOB



★杉先生、および3Fの皆様、忙しい中原稿のご協力ありがとうございました。クラス会の一つの節目として記念ブックを作ることが決まり、杉先生からはいち早く原稿を頂きました。先生はWeb上での公開にも意欲を示しておられ、「どのようでしたら、もっと皆にわかりやすく伝えられるか」と推敲を重ねられました。その結果、組んだレイアウトがやり直しになりましたが…。また先生から送られてくる

メール(原稿)が、一つのメールに対して50個位のメールに分割されてしまいました。パソコンは何百という先生のメールに占領されました。しかし、一緒に電話とメールで試行錯誤を繰り返して解決策を見つけました。やっとレイアウトが完成してお送りしようとしていた矢先に、先生は旅先で亡くなられてしまいました。ご冥福を願うと同時に、この記念ブックを杉先生に捧げたいと思います。(杉沢)

★皆さん選題後は杉先生のように慕われる老人になるよう、偏屈爺さんにならないように気を付けましょう。(畠山)
★まさか追悼号になるなんて。あんなにお元気があったのに。残念です。(馬渡)
★徳川賞は一つ目の節目。何れそちらで先生の講演とクラス会をセットでやりましょう。(梅原)
★我々も今年選題! 選題記念の同窓会を企画していましたが杉先生にも参加して頂き良かったです。残念! (大島)

早実 3F
Memorial Book

2012.3

昭和46年卒・
3F記念ブック制作委員会